令和４年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	駒田　るみ子

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・５教科４５観点のうち、全国平均正答率を上回る観点は３３観点であり、昨年度の目標３１以上を達成できた。また、５ポイント以上上回っている観点は１０観点ある。 ・観点別の達成度は昨年 66.7%→今年度 73.3% ・理科は DE 層の生徒の割合が 35%以下になった。 ・２学年はすべての科目で全国平均を上回ることができた。 ・全学年で英語は全国平均を上回ることができた。 ・２学年の経年比較をすると、昨年度よりもスコアが理科は 3.2 ポイント上げることができた。 ・３学年の経年比較をすると、昨年度よりもスコアが数学は 0.5、理科は 3.6 ポイント上げることができた。	①　２・３学年の成果が見られる教科について、指導法を共有し、学校全体で CD 層への学習支援措置（年Ⅳ期の学習補充教室）を行う。 ②　社会は AB 層の割合を増やしていくために、教科だけでなく、ふりかえりシートや毎月２回の小テスト等、学年組織による基礎学力の定着・向上を図りつつ、発展学習の時間を確保できるよう学年・学校全体で取組む。 ③　全教科において活用（記述、特に表現力）の力を向上させるためロイロノートを活用した話し合い活動を行い授業改善を図る。 ④　全学年対象の放課後学習補充教室を引き続き実施する。（２学年の実力アップ講座も継続する。）

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・勉強するときは自分で計画を立てていると回答した生徒が全国平均より高い。 ・学校以外で平日の学習時間が 1 時間以上の生徒が全国平均より高い。 ・将来あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたい夢や目標があると回答した生徒が全国平均より大きく上回っている。 ・本当に辛いことを学校の先生に相談できる、と回答した生徒が全国平均より高い。	①　自分の意見を発表することや質問に答えることを苦手とする回答が全国平均より低いため、ソーシャルスキルトレーニングや話型や※１「もやしちゃんと青い服」やプレゼンテーションを取り入れた話し合う指導法の工夫が必要である。（※１**目**的・**役**割・**進**行・**ちゃんと**ルールを守ろう！・**あ**いづち・**驚**き・**言**いかえ・**復**唱という話し合いを広げるためのポイントの頭文字をとったもの） ②　土日の学習時間が 1 時間以上の生徒数が全国平均よりも低いため、週末の課題を学校全体で計画的に出していくことが必要である。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・全学年で授業に集中して取り組む生徒が多く、授業規律が徹底されている。 ・吾嬬二中プロシージャ（別紙参照）を意識した授業をすべての教員が実施している。 ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の学習の進め方において、２、３学年は「人の話を聞くときはメモをとる。」「大切だと思った部分に線を引く。」の項目が東京都より高い。１学年は「集中して取り組んでいる。」の項目が東京都より高い。 ・授業の内容に対する理解の程度において、２、３学年は理科の理解・得意の項目が東京都より高い。	（校内で実施している家庭学習調査結果より） ① 一日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、学年ごとの組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習補充教室を充実させる。 ② 基礎学力の定着のために、吾嬬二中プロシージャをさらに徹底した授業改善を行う。 ③ 教員全員が ICT を活用した研究授業を実施し授業力の向上を図る。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）基礎・基本の定着を図り、活用能力を高める授業の実践【授業改善】

① 毎時間の学習のねらいを明確にした授業の実施、学習の振り返りを意識したまとめの徹底

・吾嬬二中プロシージャを再確認し、共通理解のもと個に応じた丁寧な指導を心掛ける。

・校内研修以外でも互いの授業を参観し合い意見交換することで、授業力の向上を目指す。

② 区学力調査結果の分析及び学力向上プランの作成

・年明けから入試問題や過去の学力調査の問題に取り組み、弱点を把握させ、粘り強くそれを克服させる等間違ったところを分析した授業を実践する。

・全教員が学力向上プランに基付いた授業を実践及び検証をし、振り返り期間を利用して全生徒への個別の学習支援を行う。

③数学・英語（習熟度別少人数指導）の効果的な実施

・各コースの生徒数も考慮しながら、学習事項を定着させるための、繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。

・特に発展のクラスでは、発展的な問題に多く取り組ませることで活用の力を高めていく。

④班編成の工夫をした話し合い活動による思考力・判断力・表現力の向上

・生活班に限らず、学習を意識して、生徒の実態に応じて習熟度も考慮した班編成を行う。

・全教科において、ロイロノートの共有ノート等を使った二往復以上の話し合い活動により思考力・判断力・表現力の向上を図る。

⑤ＩＣＴ機器の活用

・授業でｉＰａｄ等を用いて画像や動画を見せたり、ロイロノートや様々なソフトを活用したりすることで視覚的な効果が期待されるため、積極的に活用し、学習意欲向上と理解度のアップを図る。

（２）ふりかえりシート等の効果的な活用と、定期考査、各種コンテストの実施【繰り返し学習】

① 既習事項の復習や宿題として、各教科におけるふりかえりシート等の効果的な活用

・前期末試験後からの３週間を学習ふりかえり期間としてふりかえりシート等を実施する。各教科でふりかえりシート等を活用し、自分の弱点を把握させるとともに個別に支援を行う。

・学年末試験後から終業式までの期間を一年間の学習ふりかえり期間として、各教科で弱点の克服を目指していく。

・「i-check」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を活用し家庭とともに学習改善を行う。

② 年４回の定期考査の実施

・考査３週間前より家庭学習計画を作成し、実施させることで学習量を前回より一日 20 分増やすことを目標にする。

・定期考査前に質問教室を実施するとともに、組織的に課題学習や朝学習の時間を設ける。

③ 授業における小テスト・確認テストの実施

・日常的な小テスト・確認テストへの取組を通じて、学習意欲を高めていく。再テストを徹底する。

④漢字コンテスト（12 月）、計算コンテスト（2 月）、スペリングコンテスト（年２回）の実施

・コンテストに向けての学習を通じて、読み書き計算の基礎を定着させる。

・実施前に朝学習で取り組ませたり、宿題としてじっくり取り組ませたりする。

・目標点に届かなかった生徒に対して、補習教室を実施する。

（３）学習機会の拡大【Ｄ・Ｅ層の生徒の基礎学力の定着】

①質問教室や補習教室の実施（階層の生徒を指名するとともに、希望者も対象とする）

・夏休みに補充教室を実施する。

・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習会（吾嬬二塾）を実施する。

・すみだＳＳＴを活用して、国・社・数・理・英の学習補充教室を実施する。

・３年生の希望者対象の実力アップ講座を通年で実施する。（毎週火曜日　通年実施）

・1 年生の D 層 12 名対象に「すみだチャレンジ教室（冬期 1 月～3 月）」を実施する。

②宿題を計画的に学校全体で出す。（教科担任が学年所属にいない場合でも定期的に実施）

・学習サイクルを確立するため、ふりかえりシートに毎日取組む。

①、②により、家庭学習の意欲向上にもつなげ、学習習慣を身に付けさせる。

３　「令和５年度　墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

・５教科４５観点のうち、全国平均を上回る観点を３５以上にする。

・社会でＤ・Ｅ層の生徒の割合を３５％以下にする。

・２、３年生の全科目を全国平均以上にする。

すべての教科で学力向上プランを作成して、来年度の数値目標を設定している。

２で述べた「本年度の学力向上に関する主な取組」を確実にすることで、学校全体としての数値目標を達成する努力をしていく。さらに、後期に実施する定期考査及び小テストにより、授業改善の効果を検証する。